

第5学年 道徳科学習指導案

令和元年6月18日(火) 第5校時

- 1 主題名 相手の立場を考えて 内容項目 [B 相互理解・寛容]
- 2 ねらい 感情を対立させることになった二人の気持ちを考え、話し合うことを通して、相手の立場や意見を尊重することの大切さを理解し、相手の立場に立って考え、広い心で接しようとする態度を養う。

教材名 「すれちがい」 (出典:「みんなの道徳 5年」 学研教育みらい)

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、第5学年及び第6学年における内容項目 [B 相互理解、寛容] 「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」を深めることをねらいとしている。これは、中学校の「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと」へと発展していくもので、広がりや深まりのある人間関係を築くために、自分の考えを相手に伝えて相互理解を図るとともに、謙虚で広い心をもつことに関する内容項目である。

高学年の児童は、自分のもの見方や考え方についての認識が深まることから、相手のもの見方、考え方との違いをそれまで以上に意識するようになる。また、この時期には、考えや意見の近い者同士が接近し、そうでない者を遠ざけようとする行動が見られることがある。そのような時期だからこそ、相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。そこで、お互いにかけていない存在であることを自覚し、広い心で相手に接し、自分と異なる意見や立場を尊重し寛容の精神をもった人間の育成を図りたいと考え、本主題を設定した

指導に当たっては、相手の過ちなどに対して自分にも同様のことがあるとして、謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処することが大切であり、自分と異なる意見や立場を尊重する態度を育てていく必要がある。今日の教育課題の一つであるいじめを生まないためにも、他者を尊重する態度を育てていくことが重要である。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、明るく素直で優しい児童が多い。困っている友達がいると、声をかけてあげたり、手助けをしてあげたりと、思いやりの心をもって接することのできる児童も多い。5年生になって、2ヶ月経ち、委員会活動や金管バンドなど高学年としての自覚や責任をもって行動している様子が見え、大きな友達間のトラブルもなく、仲良く過ごしている。しかし、相手の立場になって考えることができず、ふとしたことから相手の過ちや失敗を責めたり、腹を立てたりするなど寛容ではない言動をとってしまう児童もいる。自分本位ともみられる言動で友達を困惑させてしまった場面も見られた。

道徳の授業においては、友達の意見に耳を傾け、自分の考えを深め、自己の生き方を見つめる学習態度が見られる。一方、進んで自分の考えや思いを発言する児童は固定されている。

ねらいに迫るための意識調査の結果は、以下のとおりである。

実施日 平成31年4月26日(金) 調査人数25人

- 1 あなたには仲のよい友達がありますか。
はい(25人) いいえ(0人)

- 2 その友達と考えや気持ちがすれちがったことはありますか。
それはどういう場面で起こりましたか。
はい(2人) いいえ(23人)
 - ・一緒に行こうと約束していたけど、急用で行けなくなり、無理と伝えたが、上手く伝わっておらず、少し言い合いになってしまった。
 - ・放課後に、家で遊ぶか外で遊ぶのかで考えがすれちがったことがある。

- 3 友達のことをゆるせないと思ったことはありますか。
ある人は、それはどんなときですか。
ある(5人) ない(20人)
 - ・自分の物を取られてしまったとき(3人)
 - ・けんかしたとき(1人)
 - ・別の友達に意地悪したのを見たとき(1人)

- 4 友達と意見が分かれたとき、どうしますか。
 - ・相手の考えにしたがう(13人)
 - ・二人で話し合ったり比べたりしながら、良い方を選ぶ(5人)
 - ・自分の意見を通す(4人) ・無視する(2人)
 - ・1日考えて、次の日に意見を言う(1人)

アンケートから、大多数の児童が仲の良い友達と気持ちがすれ違った経験がないと回答している。また、友達のことをゆるせないと思ったことがある児童も少数で、ほとんどの児童が、良い友好関係を築いていくことがうかがえる。一方で、友達と意見が分かれたときには、「相手の考えにしたがう」「自分の意見を通す」「無視する」を合わせると、76%の児童が答えており、「二人で話し合い、良い方を選ぶ」などお互いの立場や気持ちを尊重して決めていく児童は少ないことが分かった。このことから、自分のことばかり主張したり、相手の意見に従ってしまったりするのではなく、お互いの立場で考えて生活できるように、本教材での学習を通して深く考えさせていきたい。さらに、自分とは異なった意見や立場をもつ者同士が互いを尊重し、認め合い、理解しながら高めあう人間関係を築くことが、豊かな社会をつくる上で重要であることが分かり、自分と異なる意見や立場を受け止めようとする心情や態度を育てていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、友達との約束を守ろうとするが、すれ違いにより、互いに相手の立場を考えることができず、仲たがいでしてしまうことを通して、ねらいに迫るものである。ピアノの稽古に一緒に行く約束をしたよし子とえり子が、「すれちがい」から、お互いに不信感をもつようになる様子について、二人がそれぞれの立場から書いた日記で構成した教材である。感情を対立させることになった二人の気持ちを考えることで、相手の立場に立って考えることの大切さや、自分と異なる立場や意見を尊重することの重要性について考えさせることができる教材である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の点について話し合うこととする。

①よし子とえり子がなぜすれ違ったのかについて

ここでは、道徳的価値を理解させるために、2人の日記を比較して、なぜすれ違ったのかを考えさせる。2人の行動のすれ違いは、相手の事情を知ろうとせず、一方的に腹を立て、お互いの立場で考えたりすることができなかったことが原因であることを捉えさせる。そうすることで、相手の立場に立って考えることが大切なことに気付かせる。

②よし子とえり子のどちらの考えに共感するかについて

ここでは、自己を見つめさせるために、よし子とえり子のどちらの考えに共感するか話し合わせ、どちらにもそれぞれ言い分があり、それを互いが受け入れようとしていない点に気付かせる。また、どちらの考えにより共感できるかを考えさせることで、二人に自己を投影し、価値について自分との関わりで考えることができるようにする。

③もし、それぞれの言い分を伝えていたらという視点について

ここでは、多面的・多角的に考えさせるために、「もし、それぞれの言い分を伝えていたら」という視点で考えさせる。2人の日記は、対立した場面で終わっているが、「もし、それぞれの言い分を伝えていたら」という設定で、相手の立場や意見を尊重することの大切さについて、別の視点から考えさせる。その際、役割演技をさせて、相手とどのように接することが大切なのか考えさせることも効果的である。

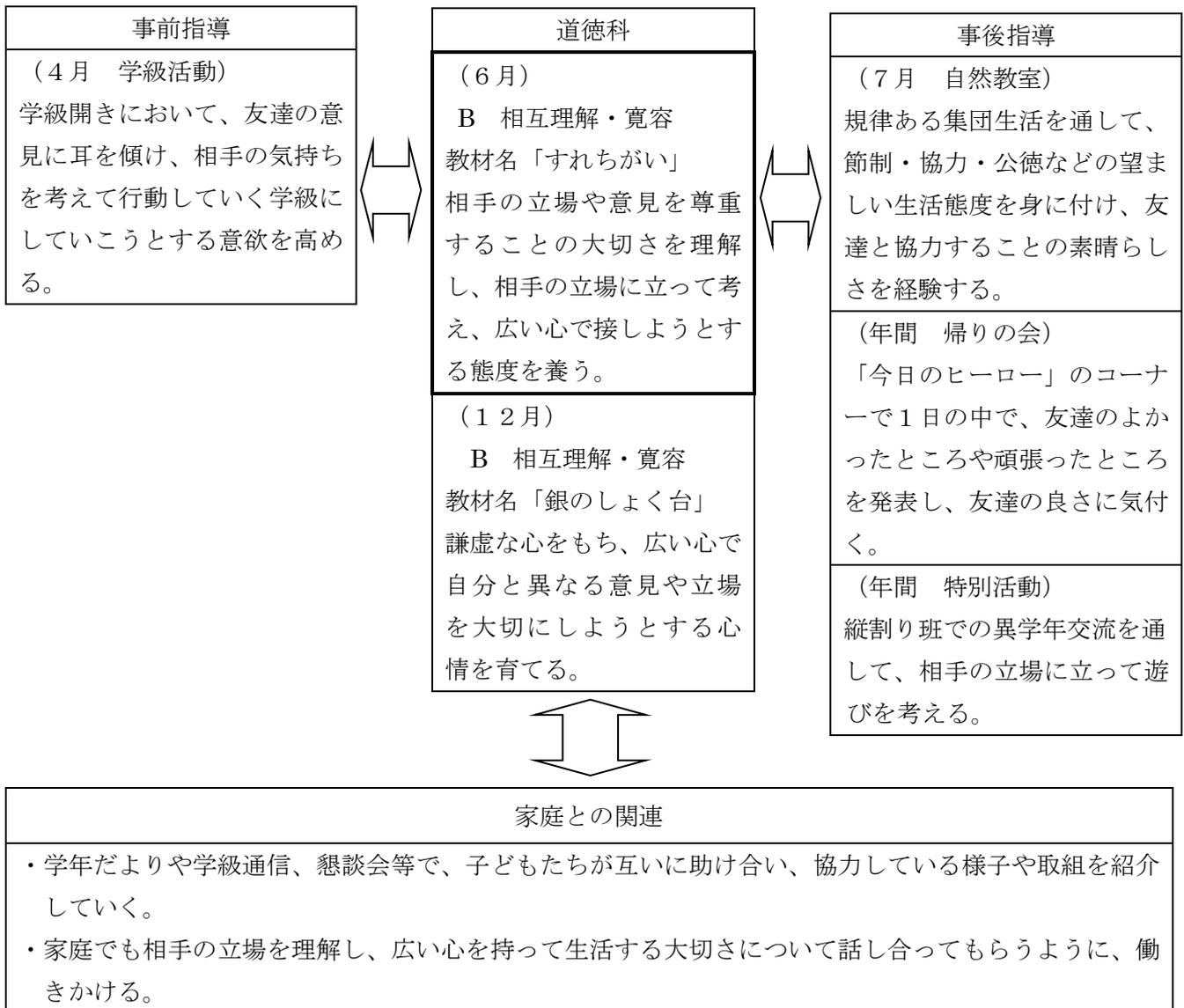
以上の理由から、本主題を設定した。

4 学習指導過程

段階	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	<p>1 アンケートの結果を知る。</p> <p>2 本時の課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と意見が分かれたときに、相手にしたがってしまう人が多いんだな。 ・自分の意見を通したり、無視したりする人もいるんだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分や相手の意見だけを尊重する人が多い結果になったことをしっかりとおさえた上で、気持ちがすれ違わないために大切なことを考えさせる学習課題につなげる。 	4 1
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 相手との気持ちがすれちがわないために、大切なことは何だろう。 </div>				
展開	<p>3 教材「すれちがい」を読んで考え、話し合う。</p> <p>(1) よし子とえり子はそれぞれどんな気持ちだったでしょう。</p> <p>(2) あなたは、よし子とえり子のどちらの考えに共感しますか。それぞれの立場で考えましょう。</p>	<p>よし子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうして電話をくれなかったの？ ・約束を破るなんて、許せない。 ・言い訳なんて聞きたくない。 ・もう約束なんてしたくない。 <p>えり子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勝手に2時と決めるなんて、自分勝手だ。 ・謝ってるのに。話くらい聞いてもいいじゃない。 ・言い分も聞かずに怒るなんてひどい。 ・私にも理由があったのに。 <p>よし子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・えり子の事情を知らなかったのだから、怒っても仕方がない。 <p>えり子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話をしたかったけれどできなかった事情が分かる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・よし子はえり子の事情を知らず、一方的に腹を立てている点をおさえる。 ・よし子との行動のすれ違いを板書で整理する。よし子のことを気にしながらも、言い分を聞いてくれないよし子に腹を立てているえり子の気持ちに共感させる。 ・お互いに言い分があることについて話し合い、気付かせる。また、二人とも自分のことばかり主張して、相手の立場を考えて話を聞こうとしていないことも理解させる。 	5 8 10

	<p>(3) もし、それぞれの言い分を伝えていたら、それぞれどのような気持ちになったでしょう。</p> <p>【役割演技】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・言い分を聞いてくれないよし子に腹を立てる気持ちに共感する。 <p>よし子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電話をかけてくれていたのね。 ・事情を知らずに怒ってごめんなさい。 <p>えり子</p> <ul style="list-style-type: none"> ・急に買い物を頼まれたの。待たせてごめんね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・二人の思いや言い分を伝えた場合の役割演技でさらに考えさせる。すれ違った状況を理解し、思いを伝えることで、相手への理解が深まったり、相手を受け止めたりできることに気付かせる。 <p>☆役割演技を通して、思いを伝え、相手の立場に立って考えることによさに気付いている。(発言・観察)</p>	10
終末	<p>4 自己を見つめ、自己の生き方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の学習を通して、お互いの心がすれ違わないようにするには、何が大切だと思いましたが。感じたことや、これからしていきたいことを書きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の言い分に耳を傾ける。 ・自分のことばかり主張するのではなく、相手の立場で考える。 ・相手のことを考えて、許す気持ちが必要。 	<p>☆話合いや書く活動を通して、相手の立場に立って広い心で接しようという心情を深めている。</p> <p>(ワークシート)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寛大な心をもつことが、人間関係を円滑にすることを再確認できるようにする。 	7

5 他の教育活動との関連



6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- ・同じ出来事を二人の視点からそれぞれ考え、相手の立場に立って考えることの大切さについて話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・相手の考えや意見を受け止め、尊重することの大切さについて、自分との関わりで考えている。

